

<シンポジウム「初年次教育から始めるキャリア教育」>

趣旨説明

藤本元啓
金沢工業大学

進行役の金沢工業大学の藤本でございます。本日は全国各地から大勢の教職員の皆様がお集まりになり、大会実行委員会としてもありがたく存じております。

本シンポジウムの企画趣旨は予稿集に記した通りですが、改めて説明させていただきます。

平成 23 年度に大学設置基準が改正されたことにより、「キャリアガイダンスの義務化」が始まりました。これは教育政策上の重要課題であり、高等教育のみならず、初等・中等教育からのつながりが必要であることは申すまでもございません。

これまで GP の支援事業、それに伴う資金提供もございましたし、また大学コンソーシアムを初め、さまざまなシンポジウムにおいて、キャリア教育がテーマとして取り扱われて参りました。最近では、先月の初旬に明治大学で開催された「大学改革フォーラム 2013」でも分科会が開かれております。

しかしながら、大学の教育現場では、そもそもなぜキャリア教育を実施しなければならないのかが分からないという声、あるいは実施するにしても、その方向性が定まらず、何をしたらよいのかがよく分からず、他大学のプログラムについて情報を収集しているという声が多いのではないのでしょうか。例えば、正課教育でキャリア関係科目をいくつも並べる、教育産業界との連携を探る、インターンシップを前面に押し出す、課外教育でさまざまな講座を開設する、組織改編で「キャリアセンター」を立ち上げ、教職協働を推進するなど、担当者のご苦勞は並大抵ではないと思います。

「キャリアガイダンスの義務化」を実施するにあたり、皆様の大学ではカリキュラムをどのように構成していらっしゃるのでしょうか。キャリア教育の意味を狭義で捉えるか、広義で捉えるかによって異なりますが、キャリア教育科目、職業教育科目、就職支援教育科目などの科目群の構築、あるいは自己理解・自己管理能力への注力、124 単位全体での構築、さらには正課教育と課外教育との連携と関連性を強めるなど、大学の歴史や事情によって、多様な理解と運営がなされています。

また、キャリア教育は大学内部だけで解決するものではなく、産業界とのつながりを考慮しなければならなくなって参りました。特に大学と産業界との間に存在する、教育に関する意識のズレにも留意しなければなりません。要するに、大学は産業界からのニーズを強く認識せざるを得なくなっているということです。

そうした中で、本日は「初年次教育から始める」という文言を意識しつつ、第 1 部では 4 名の先生方に、スクリーンにあるタイトルでお一人 20 分間のご報告をいただきます。休憩をはさみ、第 2 部では会場の皆様からのご質問を主とした討論を行います。

キャリア教育の運営についての問題点は多岐にわたっており、本シンポジウムで全てが解決するわけではありませんが、勤務先で活用・援用できるものを一つでもお持ち帰りいただければ幸いに存じます。

約3時間の長丁場ではございますが、有意義なシンポジウムになることを期待しております。皆様、どうぞよろしくお願いたします。